

荒木先生の授業からの学び

研究部

【主体的な学び】

- ・ 生徒が目指すゴールイメージを持てるよう、見通しをもって授業を展開している。
- ・ すべての生徒が授業に意欲的に取り組めるよう、苦手な生徒に対する手立て（ルールやコートの工夫）が意図的に仕組まれていた。
- ・ 50分の時間配分にメリハリがあり、生徒の運動量も十分確保されていた。

【対話的な学び】

- ・ 前時の段階でゲームの様子を撮影したものを活用しゲーム分析させたことで、生徒がチーム課題を意識していた。
- ・ チームの作戦など、生徒同士で話し合わせ時に、何を話し合うのかポイントを明確にさせて話し合わせる必要がある。

【深い学び】

- ・ 「コートを広く使ってゲームができるポイントを見つけること」は、あくまでも手段の一つであること。ゴール型のゲームの特性として、いかに相手より点を奪うことができるか、そこに楽しさがあることに着目させ授業を展開していくことが重要である。